



おもちゃ箱の会

～手づくりおもちゃをリニューアル!!～

おもちゃ箱の会は、「布のおもちゃ」や「布の絵本」を作成し、無料で貸し出しているボランティアグループです。赤ちゃんからお年寄りまで、障がいのある方にも楽しんでもらいリハビリに役立ててもらおうと、昭和63年6月から30年以上にわたり活動しています。

誰の手にも優しい布のおもちゃや布の絵本は、「ふくいおもちゃ図書館」(フェニックス・プラザ2階 ※要事前予約 TEL 20-5052)で貸出しをしており、手に触れたときの温かさや柔らかな感触がとても喜ばれています。

これまでに、ことばの教室や地域子育て支援センター、こども園、デイホーム等、多くの団体が利用していましたが、新型コロナウイルスの影響で、利用が減少。この機会に、会員が汚れや破れたものがないか点検する中、初期に作成したもののリニューアルや、新しいおもちゃを作成しようと決めました。

作成にあたっては、日頃から、障がいのある子どもの療育に関わっている専門職から布のおもちゃで遊ぶ様子を聞いたり、どのような手指の動きができるかなど具体的な意見やヒントをもらい、会員同士でアイデアを出し合いました。今は、裁断やミシンがけなど、得意とする作業を分業しながら作成しています。

代表の野村文子さんは、「見るだけでなく、ひもやボタン、ファスナーなどをつけて、動かして遊べるように工夫されたものもあります。年齢や人数によって、いろいろな遊び方ができると思うので、ぜひ多くの方々に利用してほしい」と話してくれました。



リニューアルした布絵本



▲毎週水曜日、10時～15時
ボランティアルーム
(フェニックス・プラザ4階)で製作



折り紙ボランティア ブーケ茶論

～ 会えなくても折り紙で交流 ～

折り紙ボランティアブーケ茶論は、平成26年度に市社協ボランティアセンターで開催した「折り紙ボランティア養成講座」に参加したメンバーが結成したグループです。自治会型デイホームの参加者と季節の折り紙作品をつくったり、オープンサロンふらっとベル(花堂南2丁目16-1ショッピングシティ・ベル2階)の壁面の飾りつけなどの活動をしています。

新型コロナウイルスの影響を受ける前までは、高齢者施設に出向いて利用者と一緒に作品づくりを楽しんでいましたが、コロナ下では施設での活動が難しくなりました。そこで、一緒に作ることはできなくても、見て楽しんでもらえるよう、自分たちで作った作品を高齢者施設へプレゼントし、施設内で飾ってもらっています。今回プレゼントした、介護老人保健施設アルマ千寿(川合鷲塚町)の利用者の皆さんは、フロアに飾られた作品を見て、「上手に折ってあるね」と喜んでおられたそうです。

代表の滝内明美さんは、「折り紙は家の中でもできるので、もし外での活動が難しくなっても、作品を作り溜めておけます。それがメンバーのモチベーションを維持することにもつながっています。」と話してくれました。



▲アルマ千寿へプレゼントした作品



交流のかたちは変わっても、施設とグループのつながりを絶やさない工夫をしながら活動されており、滝内さんは、「いつかコロナが収束した頃に、また一緒に楽しく作品づくりができるようになるとうれいですね。」と話してくれました。